



(1) 核データ研究グループ

核データ研究グループの紹介

日本原子力研究開発機構
原子力基礎工学研究センター
核工学・炉工学ユニット
核データ研究グループ
岩本 修
iwamoto.osamu@jaea.go.jp

昨年度から始まった日本原子力研究開発機構の改革の一環として、今年度4月に大きな組織改正が行われた。原子力機構の研究分野は、福島研究開発部門、安全研究・防災支援部門、原子力科学研究部門、高速炉研究開発部門、バックエンド研究開発部門、核融合研究開発部門の6つの部門に再編された。昨年度まで核データ評価研究グループが所属していた原子力基礎工学研究部門は原子力基礎工学研究センターとなり、原子力科学研究部門の下に先端基礎研究センター、量子ビーム応用研究センターなどと共に配置されている。原子力基礎工学研究センター内でも組織が改正され、4つだったユニットが6つに増えた。核データ評価研究グループが所属していた核工学・炉工学ユニットの名称は変わらなかったが、ユニット内で核データ評価研究グループは応用核物理研究グループの一部と合併して核データ研究グループに再編された。現在の正式名称は、独立行政法人 日本原子力研究開発機構 原子力科学研究部門 原子力基礎工学研究センター 核工学・炉工学ユニット 核データ研究グループである。

核データ研究グループでも核データ評価研究及び JENDL の開発に関する活動はそのまま継続している。応用核物理研究グループで行っていた J-PARC・ANNRI 施設等を用いた核データの測定も、新たにグループの活動に含まれることとなった。核データ研究にとって、測定と評価は研究の両輪であり、核データの質を向上させると共に、評価値に対する説明責任を果たすためには評価者は測定の内容をきちんと把握する必要がある。また、測

定者にとっても評価者と議論や共同研究を行うことは有益であると考えます。統合により一つのグループになったことで双方がより身近に感じられ、コミュニケーションがスムーズに進むことを期待しつつ、新グループではこれを強みとして核データの研究を推進していきたいと思う。

グループの合併に加え、ポスドク3人が4月から新たに加わったことにより、庶務担当の方を含めるとグループのメンバーは全部で15名となった（インターンシップでフランスから来ている学生も加えると16名）。昨年度の小ぢんまりとした核データ評価研究グループと比べ大所帯になり、グループ会議もにぎやかである（ただし、会議時間が長引いてしまうのが難点だが）。

